

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第677号 平成26年1月24日

歴史の教訓（1）

今年は、第1次世界大戦が始まって100年という、節目の年に当たります。

1000万人の兵士が死亡（犠牲者数は民間人も含めると3000万人を優に超えるといわれています。）したといわれる第一次世界大戦は、1914年6月、当時のオーストリア・ハンガリー帝国の皇位継承者であったフランツ・フェルディナント大公夫妻を狙った2発の銃声によって引き起こされました。

それは後に「サラエヴォ事件」と呼ばれているこの暗殺事件は、オーストリアのボスニア併合に反発するセルビア人によって実行されたものです。この事件にセルビア政府がどう関わったか明らかではありませんが、事件の背後には、セルビア軍の一部等で構成される「黒手組」の存在があったといわれています。

オーストリアは「サラエヴォ事件」をきっかけに、セルビアに対し宣戦布告する事になります。するとセルビアの同盟国だったロシアはオーストリア戦に参戦を決意します。こうした中、ロシアと露仏同盟の関係にあったフランスに挟まれたドイツがロシアとフランスに宣戦布告し、ベルギーに侵攻を開始します。これを見たイギリスは、ドイツに対して宣戦布告し、イギリスと同盟関係にあった日本も、同盟国側として参戦する事になります。

戦線が次々と拡大して行く様子は、まるでドミノ倒しの様ですが、31カ国を巻き込んだこの戦争は4年にも及び、かつて経験した事のない悲惨な結果を人類にもたらす事になりました。

「サラエヴォ事件」が第1次世界大戦のきっかけとなった事は確かですが、しかし、当時の人々は誰一人として戦争を望んでいた訳ではありません。にもかかわらず、何故戦争へのトリガーが引かれたのか、また、何故戦争の拡大を食い止める事は出来なかったのでしょうか。

第1次世界大戦は、オーストリアとセルビアとの確執が発火点ではありますが、世界大戦へと拡大した背景には、ドイツの欧州支配への野望があったといえるでしょう。ヨーロッパ全体が油紙の様に、何かのきっかけで燃え上がる危険を含んでいました。にもかかわらず、ドイツの対極にあったイギリスにはドイツの暴走を抑える力はなく、むしろ、各国は領土拡張という危険なパワーゲームを競っていたのです。

こうした当時の状況を、それは過去の話と片付けてしまう事は出来ないように思います。何故なら、第1次世界大戦から100年の時を経て今日の世界情勢を見ると、あの大戦勃発の前夜とよく似ているように感じてならないからです。その意味では、今日においても、第1次世界大戦勃発の経緯等について検証し、そこから学んで行く必要があると強く感じています。（塾頭：吉田 洋一）